令和８年度第２回沖縄県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会議事要旨

日　　時：令和８年９月３日（木）14：00～16：30
方　　法：WEB
出 席 者：【ZOOM 参加】９名
奥平藤也（県立中部病院）、玉城佐笑美（県立中部病院）糸数真理子（那覇市立病院）、仲村渠美奈子（北部地区医師会病院）、岩崎奈々子(県立八重山病院)、田場純子(沖縄県保健医療介護部)、西村克敏(地域統括支援センター)、友利晃子（琉球大学病院）、大久保礼子（琉球大学病院）
欠 席 者：仲宗根恵美（那覇市立病院）、横田美佐（県立宮古病院）、間島奈央子（キャンサーフィットネス）、上原弘美（友愛医療センター）、増田昌人（琉球大学病院）
陪 席 者：なし

【報告事項】
１．令和８年度第１回情報提供・相談支援部会議事要旨（令和８年６月 11 日）
資料１に基づき、部会長より、令和８年度第１回沖縄県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会議事要旨について報告があり、承認された。

【協議事項】
1．令和８年度地域相談支援フォーラム in 沖縄の開催について
資料２に基づき、友利委員より開催概要案と進捗について説明があった。主に前回の委員会を踏まえてチラシの修正を行い、ウェブから申し込みできる申込フォームを作成する。申込〆切は 10/23 を予定。
各県の取り組み発表のテーマは「相談支援センターとしての取り組みと悩みどころ」に決定し、例年通り音声付スライドの提出を各県へ依頼していく。大容量データの送受信もファイルセンダーを利用するため問題なく対応できる見込み。
グループディスカッションのテーマは３つを用意し、各グループへ均等に割り降ってディスカッションしていく方法に決定した。ファシリテーターは名簿に記載されている方々に加え、追加で３～４名要請する。司会やファシリテーター等との打ち合わせを 11 月 18 日頃を目途に開催できるよう調整する。
次回の実行委員は 10 月７日(水)16 時からオンライン開催予定。

2．第４次沖縄県がん対策推進計画（協議会版）中間評価について
資料３に基づき、増田委員不在につき、紙面報告となった。相談支援部会委員へは、後日、説明およびコメント記入を依頼される予定。

3．リレー・フォー・ライフの参加について
大久保委員より、口頭で今年の「リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2026 おきなわ」の開催について説明があり、今年も部会から参加することで承認された。目的や概要は前

回と変わらず、会場が沖縄リハビリテーション福祉学院に変更となる。正式な日にちや場所が分かり次第、メール審議で参加者等を募る予定。

4.その他

友利委員より、がんサポートハンドブック掲載内容について意見がないか質問があった。高額医療費制度は制度の移行状況をみて掲載内容を検討する必要があること、両立支援の部分で、患者さん・事業所（職場担当者）・病院の３者間での情報連携の取り組みに関する内容も一度検討いただきたいと意見があった。

【報告事項】

2．地域統括相談支援センター活動報告

資料４に基づき、西村委員より紙面に沿って報告があった。

3．がん患者ゆんたく会（令和８年4～6月）

資料　5-1～5-4　に基づき、令和８年４月～6月に各拠点病院にて開催されたがん患者ゆんたく会について報告があった。

〇中部病院（玉城委員）

４月５月６月に開催。４月は緩和ケアについて、５月はむくみ（リンパ浮腫）についての講義とマッサージの体験もしてもらった。６月は新規参加者の強い参加希望があり、暴風域に配慮しながら開催した。今年から毎月講話の時間を盛り込み、そのテーマにまつわる思いや関心事を話してもらう流れを取るようにした。それぞれの近況を報告し合いながら、楽しく和やかな雰囲気であった。

〇那覇市立病院（糸数委員）

５月７月に開催。５月は「医療費について」のテーマでがんサポートハンドブックを使用して講演をした。７月はOTとPTによる講話で、自宅で出来るリハビリをおこなった。直接がんには関わらない内容も含め、患者さんからの質問に応じ工夫点を答えてもらった。参加者同士の意見交換も活発だった。

〇琉球大学病院（友利委員）

４月５月６月に開催。４月は社会保障制度の講義をしたが、代替療法や食事療法など食に関する質問が多かった。５月は薬剤師の先生にレクチャーしていただき、参加者の薬物療法についてのイメージが抗がん剤と嘔吐といったイメージに偏りがちだったが、正しく薬物療法の知識を得て治療のイメージが広がっていた様子だった。

〇北部地区医師会病院（仲村渠委員）

年三回がん患者サロンを開催。一回目が６月に開催された。フリートークだったが、たくさんお話をされる方もいれば自己紹介だけになってしまう方もいた為、次回は参加者が話しやすいよう配慮し、テーマを設けるか検討している。

〇その他

ゆんたく会をオンラインで行う予定がある病院はあるか玉城委員から質問があった。各病院より、参加する患者さんの年代が高く、直接来ることを日課として楽しみにして

いる方もいるため現時点では検討はしていない、と回答があった。

4．がん相談件数（令和８年 4～6 月）

資料 6-1～6-6 に基づき、令和８年１月～3 月の各拠点病院のがん相談件数と内容について報告があった。

〇北部地区医師会病院（仲村渠委員）

4 月 76 件、5 月 41 件、6 月 51 件。訪問看護からの相談や連絡調整が多い傾向。近隣地域に訪問診療所の開業が２件予定されていると情報共有があった。認知症のある高齢者夫婦世帯の支援で、対応に難渋するケースがあった。

〇県立中部病院（奥平委員）

4 月 128 件、5 月 129 件、6 月 146 件。相談内容は在宅ケアに関することが多く、傾向は変わらなかった。相談事はないが告知後の治療前に立ち寄る方も少しずつ増えてきた。

〇那覇市立病院（糸数委員）

4 月 153 件、5 月 95 件、6 月 94 件。外国人のがん相談も多くなっており、当院での治療または帰国しての治療といった選択を、外国人支援室の部署の協力のもと、通訳を通して対応したケースがあった。

〇県立宮古病院

紙面報告。

〇県立八重山病院（岩崎委員）

4 月 58 件、5 月 73 件、6 月 71 件。相談内容の傾向は大きく変わらず、在宅調整が毎月多い。在宅調整中に亡くなったケースがあり、スピード感が課題だと報告があった。

〇琉球大学病院（大久保委員）

4 月 121 件、5 月 121 件、6 月 113 件。総数は大きく変わらないが、新規の方とリピーターの割合は半々で、５月６月は六割が新規になっていると報告があった。相談者は、これまで本人と付き添いや家族のみが多い傾向だったが、今期は患者本人のみの利用割合が増えていた。相談内容では、精神的苦痛の割合が 4 月 6 月は大きく、経済面との関連やご家族内の関係性に関連することなど、多様である。心理的な負担への支援に関して継続的な支援の必要があるケースがみられたと報告があった。

〇その他

仲村渠委員より、訪問看護指示書など書類に関する問い合わせへの対応はどうしているか質問があった。各委員の所属施設での対応について、主にクラークさんや病院の受付窓口、医事課などで対応していると回答があった。

5．がん相談件数集計（令和８年１月～3 月）

資料 7 に基づき、友利委員より、各拠点病院の集計比較について報告があった。

昨年度同時期と比較して、相談件数に大きな変化はない。内訳では、主治医以外の院内スタッフからの紹介や情報提供もあり、初診の方の利用が去年の二倍になっていると報告があった。

がんの部位別の相談内容は、大腸、肺、膵臓に関する相談が多い。相談内容は、「精神的苦痛・不安に関する相談」が最多、次いで「在宅医療に関する相談」「ホスピス・緩和ケアに関する相談」が多かった。苦情への対応も増加傾向と報告があった。資料は各病院間の内訳の傾向が比較できるようになっていると説明があった。

6．がん相談支援センターの広報（令和 8 年 4～6 月）

資料 8 に基づき、友利委員よりがん相談支援センターの広報について、新聞無料広告欄の掲載状況の報告があった。掲載頻度にはばらつきがあるが、引き続き掲載依頼を継続する。

7．その他

次回開催について、令和 8 年 12 月 10 日（木）14 時からオンライン開催予定。